中間管理機構との連携の推進

都市的地域

宮前(みやまえ)ため池協議会（兵庫県加古川市(かこがわし)）

○ 本地域は、加古川市北西部に位置する水田地帯で、農業者の高齢化等から、地域資源の保全管理に係る負担軽減や非農業者率が高まったことによるコミュニケーションの希薄化等が課題となっていた。

○ 本制度により、市、活動組織、農事組合法人が話し合いをした結果、農事組合法人に農地集積し、一集落一農場方式とすることで合意。効率的な農業を展開する環境整備が推進。

○ 泥上げ等の保全活動に非農業者を巻き込むことで、非農業者の地域資源の保全に対する関心が向上。また、田んぼダムの取組により、大雨による浸水箇所が減少。

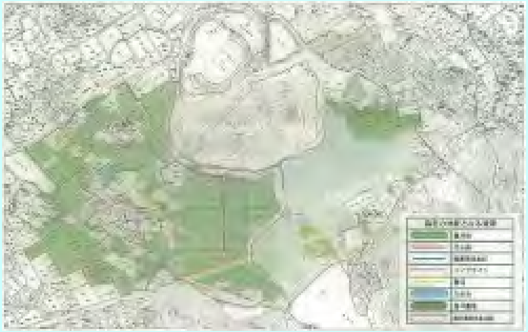
【地区概要】
- 取組面積：33ha（田 33ha、畑 0.4ha）
- 資源量　開水路12.0km、農道1.4km、ため池3箇所
- 主な構成員　農業者、町内会、農事組合、土地改良区、少年団　等
- 交付金　約3百万円（H29）
  （農地維持支払、資源向上支払（共同、長寿命化））

取組開始前の状況

○ 本地域は、加古川市北西部に位置し、ため池を水源とする水田地帯。

○ 農業者の高齢化や減少から、耕作放棄地の発生防止や地域資源の保全に係る負担軽減を求める要望が増大。

○ 核家族化の進行や非農業者率が高まったことにより、地域内のコミュニケーションが希薄化し、地域資源の保全や農村文化の継承に支障をきたす状況となった。



地区の概要図

取組内容

○ 多面的機能支払制度への移行を契機に、市、活動組織、農事組合法人が話し合いを実施。

○ その結果、農地中間管理機構を活用し、個人利用の農地を農事組合法人に集積し、一集落一農場方式とすることで合意。

○ 町内会の広報等を通じて、ため池の泥上げ等への参加を非農業者に呼びかけ。

○ 全域で田んぼダムに取り組み、水田の雨水貯留機能を高め、大雨による浸水発生を抑制。

ため池のかいぼり

取組の効果

○ 農事組合法人への集積に加え、畦畔の撤去による区画拡大（60a区画）も推進され、効率的な農業を展開する環境整備が進んでいる。

○ 泥上げ等の保全活動に参加することで非農業者の関心が高まり、地域ぐるみの保全管理体制が定着。

○ 田んぼダムの取組により、大雨による浸水箇所が減少。

堰板による田んぼダム

琵琶湖沿岸における水質の浄化、循環かんがいの取組

木浜（このはま）の資源環境を守る会（滋賀県守山市（もりやまし））

○　本地区は、滋賀県南部の琵琶湖沿岸で地形的特性から水の流れが停滞しやすく、水質の悪化が危惧されている赤野井湾に隣接している。

○　水田から流出した農業排水は、排水路を経て幹線排水路である浄化型水路に流入し、浄化池から循環ポンプで再び農業用水として利用することにより、琵琶湖への農業排水からの負荷を削減している。

○　浄化型水路には、水質の浄化と景観に配慮した植物を植えている。また、子供を含む多くの地域住民が参加するウォーキングを開催し、浄化型水路から浄化池までの区間を歩きながら、水生植物・生き物の観察や施設の果たす役割を紹介。

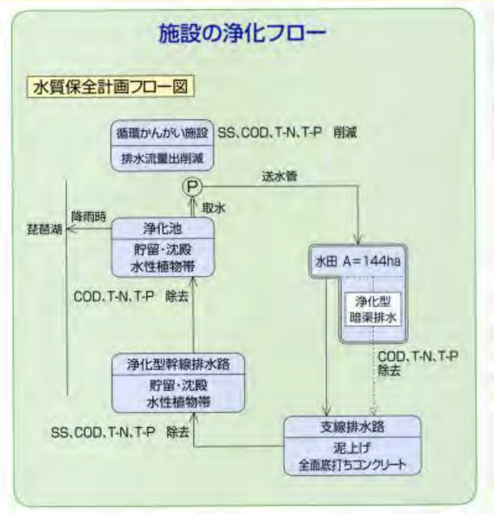
【地区概要】
- 取組面積　141ha（田137ha、畑4ha）
- 資源量
  開水路　22.0km、農道　15.2km
  パイプライン　2.0km
- 主な構成員
  農業者、自治会ほか6団体
- 交付金　約12百万円（H29）
  （農地維持支払
  資源向上支払（共同、長寿命化））

水田からの濁水流出抑制

地域全体で各筆の排水口に止水板を設置し、濁水の流出を抑制。約280箇所設置。

適正な水管理に必要な循環ポンプ操作は、重要な作業。

循環かんがい施設



排水は浄化型水路に流入し、浄化池から循環ポンプでくみ上げ再び農業用水として利用。

地域住民への啓発

地域住民が参加するウォーキングを行い、循環かんがい施設が果たす役割などについて説明。154名が参加。

農村環境保全活動（水質保全）の推進

平地農業地域

弓削弓つくりの郷（滋賀県竜王町）
（ゆげゆみ　さと　りゅうおうちょう）

○　本地域は、琵琶湖に流れる日野川の中流部に位置する水田地帯。ほ場整備から40年以上経過し、施設の老朽化により、水路の漏水や泥の堆積が進み、維持管理が課題となっていた。また、県一丸となって取組む琵琶湖の水質保全のため、水田の濁水流出防止対策が必要であった。

○　このため、本制度により、浅水代かきの促進や法面の補修による水路の表土流入を防止。また、代かき期の透視度調査のほか、植栽による景観形成活動などにより、濁水防止・環境保全を啓発。

○　これらの取組は、水稲やそばの環境こだわり農産物の作付面積の拡大やそばの6次産業化の取組などを支えている。

【地区概要】
- 取組面積　70ha（田 69ha、畑 1ha）
- 資源量　開水路　9.8km　農道　4.0km
- 主な構成員
  農業者、自治会、老人会、婦人会、子ども会、農村保全会、OB会
- 交付金　　約230万円（H29）

（農地維持支払
資源向上支払（共同））

活動開始前の状況や課題

○　琵琶湖に流れる日野川の中流部に位置する水田地帯。

○　ほ場整備から40年以上経過。施設の老朽化により水路の漏水や泥の堆積が進行。維持管理の負担が増加。

○　また、琵琶湖の水質保全のため、水田からの濁水流出防止対策が必要になった。

老朽化水路からの漏水状況

取組内容

【濁水防止対策の実施】
- 濁水防止策として、浅水代かきを促進。
- 水質保全のため、法面を補強し、水路へ表土の流入を防止。

【啓発活動の実施】
- 代かき時に集中的に行う透視度調査や看板設置により濁水防止を啓発。
  また、子ども会等と連携した植栽を実施し、環境保全も啓発。

透視度調査の状況

子ども会による植栽状況

取組の効果

【濁水防止対策の取組】
代かき時の透明度調査　3回/年

【環境こだわり農産物※の作付状況】
※化学合成農薬及び化学肥料の使用量を慣行の5割以下に半減し、環境への負荷を削減して生産された農産物
- 作付面積
  31.4ha（平成25年度）→ 42.0ha（平成29年度）

【地域ブランド「竜王そば」の栽培】
- H29年度作付面積：約24ha

【そばの6次産業化】
○そばの有機栽培生産から加工、販売までの6次産業化を実現。

そばを使用した商品の販売

みんなで取り組む！環境にやさしい農業

中間農業地域

久田和環境保全会（兵庫県朝来市）

（くだわ）（あさごし）

【地区概要】
・取組面積　26ha（田26ha、畑0.1ha）
・資源量　開水路9.7km、
　　　　　農道7.0km、ため池1箇所
・主な構成員
　農事組合法人、婦人会、子供会、
　老人会等
・交付金　　約2百万円（H29）
（
　農地維持支払
　資源向上支払（共同、長寿命化）
）

○　本地域は、但馬地域南部に位置し、高齢化に伴う後継者不足等が懸念される一方、コウノトリの放鳥に向けて環境に配慮した農法に対する関心が高まった。

○　本取組による水路や農道の草刈り等の集落一斉の共同活動により、農業者の負担が軽減。水田生物が生息しやすい環境を創出。これらの取組により、環境に配慮した農業を支援。

○　水田生物の増加によりコウノトリ等の鳥類が多く飛来するとともに、環境に配慮した農法に関心を持つ若者が新規就農するなど、新たな農業の展開が図られている。

活動開始前の状況や課題

○ 本地域は、但馬地域の南部に位置する中間農業地域である。

○ 農業者の高齢化や後継者不足による水路・農道等の維持管理の負担増大や耕作放棄地の発生が懸念。

○ 野生下絶滅したコウノトリの放鳥に向けて、環境に配慮した農法に対する地域住民の関心が高まった。

○ 平成19年度から、本交付金による水路・農道等の維持管理の共同活動を実施。

久和田の概観

取組内容

○ 集落一斉の草刈・泥上げ、水路や農道の補修・更新等を行い、生産条件を改善することで、農業者の負担を軽減。

○ 冬期湛水などにより、水田生物が生息しやすい環境を創出するとともに、生物調査による観察を実施。

○ これらの取組により、「コウノトリ育むお米生産部会役員会」が定める、無農薬、無化学肥料による「コウノトリ育む農法」による米や黒大豆の栽培を支援。

冬期湛水をしている水田

取組の効果

○ 餌となるドジョウやカエル等の水田生物の生息環境が保全され、コウノトリやガン・カモ類等の鳥類が多く飛来。

（
・冬期湛水面積：H20年度0ha→H21年度以降26ha
・水田生物の種数：H20年度5種→H27年度10種
）

○ 環境に配慮した農法により、「コウノトリ育むお米」を継続的に栽培。

（
H27年度の実績
・認証米栽培面積・出荷量　8.6ha（地区面積の33%）・36,120kg
・認証米買取価格
　コウノトリ育むお米（無農薬・減農薬）
　11,000円/30kg・8,200円/30kg（一般米　6,500円/30kg）
）

○ 多様な生き物を育む環境づくりに対する地域の意識が向上。環境に配慮した農法に関心を持つ若者が新規就農。

（
新規就農者数
　H27年度就農者　1名　　H28年度就農者　2名
）

久和田に飛来したコウノトリ

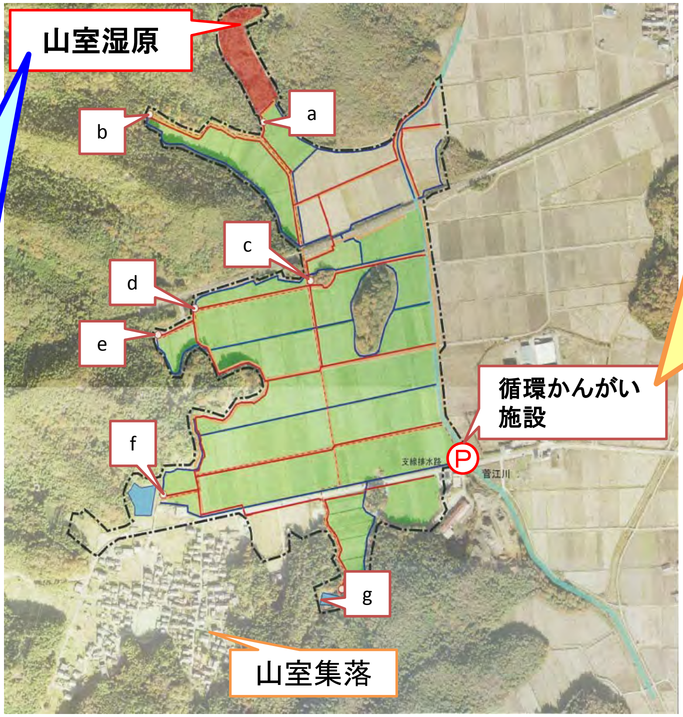
農業用水源の湿原の生態系に配慮した保全

山室(やまむろ)保全会（滋賀県米原市(まいばらし)）

○ ラン科の多年草であるサギソウ等の希少性の高い植物を有する山室湿原は、農業用水の水源としても重要な役割を果たしている。

○ 自治会が母体となり、平成24年度に活動組織を設立。地域の草刈や泥上げ等の共同活動のほか、高度な農地・水の保全活動として、
- ・琵琶湖の水質保全に資する循環かんがい施設の保全等
- ・山室湿原における管理・観測用の歩道（木道）の補修を実施した。

【地区概要】
- ・取組面積　29ha（田 29ha、畑 0.1ha）
- ・資源量　水路　7.7km、農道　4.4km、ため池　２箇所
- ・主な構成員
  農業者、自治会、老人会、婦人会
- ・交付金　約1百万円（H29）
  （農地維持支払
  資源向上支払（共同））



木道の補修

現状

・地域住民の生活の変容により、湿地の利用が減少し、人的管理が行き届かなくなったことから、湿地の陸地化が進行している。

・管理用の木道は、湿原の生態系への配慮から防腐剤を使用していないため、劣化が早く、補修等の保全管理が課題となっている。

劣化の進行した木道

高度な農地・水の保全活動による木道の補修

補修状況

循環かんがい施設の保全

現状

・昭和60年頃のほ場整備により設置した揚水機場（図のⓅの位置）からa～g地点まで排水をポンプアップし、循環かんがいを実施している。

・農業管理組合により揚水機場を管理していたが、高齢化の進行等により吸水槽の土砂上げ等に苦慮している。

高度な農地・水の保全活動による循環かんがい施設の保全

循環かんがい施設内部

真空ポンプの更新

取組における課題および今後の展開

- ・ 山室湿原の管理で年3回の伐採を実施しているが、伐採後に発生する残材の処分が課題となっている。
- ・ 地域資源の保全管理を恒久的な活動とするため、より参加しやすい環境づくりが必要。将来的には、山室湿原の保全を通して、サギソウの村として地域活性化を図りたい。

希少種保全の推進 都市的地域

おおはらさと　きょうとし

大原里づくりトライアングル（京都府京都市）

○ 本地域は、歴史・文化資源と豊かな自然環境が調和した地域であるが、耕作されていない農地が増え、風情ある農村景観が失われつつあった。

○ 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地元の小中学校と連携したオオムラサキの保護活動など、貴重な地域資源と自然の豊かさを知り、後世に残すための活動を積極的に展開。

○ 本取組により、オオムラサキや水生生物の生息数が増加し、地域住民の環境保全に対する意識も向上。また、活動を通じて地域コミュニティが徐々に回復。

【地区概要】
・取組面積　48ha （田 46ha、畑 2ha）
・資源量　開水路13.0km、農道2.0km
・主な構成員　農業者、NPO、土地改良区
・交付金　約4百万円（H29）
（農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））

活動開始前の状況や課題

○ 本地域は、三千院などの歴史・文化資源と豊かな自然環境が調和した豊かな田園風景を有する地域。

○ しかし、農業者の高齢化や混住化等により耕作されていない農地が増加するなど、風情ある農村景観が喪失。

○ 「農」を核とした地域づくりを目指そうと、平成11年以降農業者を中心に各種組織を設立し、加工・直売等の6次産業化や基盤整備事業を導入。

○ また、10年以上前に、本地域ではほとんど見られなくなったオオムラサキの死骸を小学生が発見したことがきっかけで、農業だけでなく景観・環境保全等の課題解決にも取り組み。

大原の景観

取組内容

○ 土地改良区、農業団体及び非農業者主体のNPO法人のトライアングル体制を核とした活動組織を設立。

○ 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、農地・水路等の地域資源の保全活動を地域ぐるみで実施。

○ 専門家の指導の下、地元の小中学校と連携し、希少種オオムラサキの保護活動（累代飼育や放蝶会、クヌギの育生等）や水生生物調査なども実施。

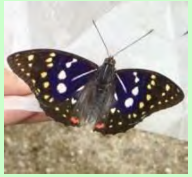
○ これらの活動を継続し、貴重な地域資源と自然の豊かさを知り、後世に継承。

水生生物調査の様子

取組の効果

○ 専用の網室に1,000頭程度の蝶を育生・保護し、毎年放蝶。近年、スポット的に蝶が見られる場所が増加。

（H29.6月放蝶会　参加者80名程度　50頭以上放蝶）



○ 地域住民の水質保全に対する意識が向上したほか、水生生物の種類が増加。

（10年前の調査　水生生物27種類
H27.7月の調査　水生生物40種類
※参加者40名程度）

○ これらの取組を通じ、農村環境が保全されるとともに、希薄になりかけていた地域コミュニティが徐々に復活。

コウノトリに配慮した農法の推進による高付加価値産品の拡大

とよおかしいずしちょう
ひぼこの大地を守る会（兵庫県豊岡市出石町）

○ 本地域は、兵庫県北部の但馬地域に位置する水田地帯。平成17年9月に国指定の特別天然記念物コウノトリが自然放鳥され、人里で野生復帰を目指す取組が行われていることから、本地区においても安全・安心な米づくりをモットーに環境創造型農業※1を実践し、「コウノトリ育む農法」※2も積極的に取り組んでいる。

○ 農地・水保全管理支払交付金（第2期対策）のスタートをきっかけに、同一土地改良区管内に位置する6集落がまとまって広域組織としたことで、共同体制を強化するとともに事務負担の軽減を図った。また、施設の計画的な点検・更新に取り組むことが可能となり、施設の長寿命化に繋がっている。

※1 農業の自然循環機能の維持増進を図り、環境への負荷を軽減するため、土づくりを基本に、化学的に合成された肥料及び農薬の使用を慣行の30%以上低減する生産方式【兵庫県の独自取組】

※2 おいしい農産物と多様な生きものを育み、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指すための農法（安全な農産物と生きものを同時に育む農法）【但馬地域独自の取組み】

【地区概要】

・取組面積164ha（田161ha、畑4ha）

・資源量 開水路37.7km、ポンプ5箇所
パイプライン15.8km、
農道29.5km、ため池3箇所

・主な構成員
土地改良区、自治会、営農組合、子供会等

・交付金 約15百万円（H29）
（農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））

活動開始前の状況や課題

○ 農地・水・環境保全向上対策（第1期対策）時から各集落それぞれに農業者・自治会・非農業者団体等により活動し、各集落の農地・水路・農道の保全に努めていたが、補修費用のかかるポンプ等の基幹施設の老朽化対策や交付金の申請、実績報告等の事務負担軽減が共通の課題。

○ 平成24年の第2期対策開始時に、同一土地改良区内に位置する6集落がまとまって広域組織としてスタート。

共同活動の実施状況

取組内容

○ 活動組織の広域化に伴い、従前の各活動組織（集落）を基本とした代表者会議と事務局を設置。事務局は申請、報告事務及び広域活動を担当し、集落は共同活動に集中できるよう役割を分担。

○ 約半数の73haで環境創造型農業による安全で安心な米づくりに取組み、その内10haで特に減農薬や早期湛水等を行う「コウノトリ育む農法」による「コウノトリ育むお米」を栽培。
また、地域の小学校や子供会と生き物調査を実施し、豊かな環境を確認する機会を提供。

「コウノトリ育むお米」の 田植え・生き物調査

取組の効果

○ 「コウノトリ育む農法」を実施することで、コウノトリが頻繁に飛来。安心・安全で環境に優しい米づくりの重要性を再認識し、互いに共同活動や環境保全活動に切磋琢磨して取り組むことにより、各集落間及び世代間の交流も深まり、地域活性化が促進。

○ 従前の小規模な活動では実施できなかった環境創造型農業に不可欠な用水ポンプ5箇所の保全も代表者会議で年次計画を策定し、点検診断を行い、順次更新補修を実施。
長寿命化対策の実施により、ポンプ等施設の故障や不具合が減少し、維持管理労力の手間と断水等の恐れが解消。

飛来したコウノトリ

ポンプの更新状況

地域の特産品を利用した地域活性化（6次産業化）

小佐治（こさじ）環境保全部会（滋賀県甲賀市（こうかし））

○ 本地域は、滋賀県の東南部に位置し、鈴鹿山脈のふもとにある中山間地域である。

○ 昭和の終わり頃まで最高級のもち米として皇室に献上されていた「滋賀羽二重糯（しがはぶたえもち）」が古琵琶湖層の土壌を生かして多く作付されていたが、この品種は栽培が難しいことなどから栽培する農家が減少してきた。

○ 活動組織が草刈り等の農地維持に係る活動を行うほか、耕作放棄地の有効利用として企業と連携した特産品の作付や様々な地域活動に取り組み、もちの加工・販売を行う「(有)甲賀もち工房」を中心に6次産業化を進め、集落、営農組織、学校等と密接に連携し地域の活性化が図られている。

【地区概要】
- 取組面積　84ha　（田84ha）
- 資源量　開水路　32.0 km、農道　17.0 km
  ため池　5箇所
- 主な構成員
  自治会、子供会、老人クラブ等
- 交付金　約3百万円(H29)
  （農地維持支払
  資源向上支払(共同)）

活動開始前の状況や課題

○ 本地域は、滋賀県の東南部に位置し、鈴鹿山脈のふもとにある中山間地域であり、少子高齢化・農家離れが深刻な状態

○ 昭和の終わり頃まで最高級のもち米として皇室に献上されていた「滋賀羽二重糯」が多く作付されていたが、この品種は栽培が難しいことから栽培する農家が減少

本取組の対象地域

昭和初期のもち宣伝隊

取組内容

○ 小佐治もちの知名度を上げるため「甲賀もちふる里まつり」に参画

まつりでの餅つき実演

○ 活動組織が耕作放棄地の有効利用として企業と連携した特産品の作付に取り組み、営農組織がもちに使用する「よもぎ」を栽培している。また、収穫は高齢者グループに手伝ってもらうなど地域一体の取組を実施

○ 小中学校への食農教育、社会見学の受入、生物観察会等の地域活動を通して、世代を超えた交流を実施

取組の効果

○ 耕作放棄地を有効利用することにより、遊休農地の発生を防止するとともに、よもぎの生産量が増え、「(有)甲賀もち工房」を中心としたもち加工が進むとともに、いろいろな地域活動が行われることで、女性や老人の雇用対策や生きがいとなっている

○ 「甲賀もちふる里まつり」には、地元住民約80人がスタッフとなり、子供からお年寄りまで参加し、集落のコミュニティの場となっている

○ 活動組織の地域活動により、豊かな生き物を育む水田づくりや環境こだわり農業の積極的な取組がより認識され、安心安全な農産物を提供

よもぎの収穫

地域外の参加者を積極的に呼び込んだ取組の発展

さと　やすし
せせらぎの郷（滋賀県野洲市）

○　本地域（野洲市須原地内）集落内の高齢化が進み、担い手が年々減少する中、地域の農業と環境を守る集落ぐるみで一致団結できる新たな取組が必要だった。

○　「農地・水・環境保全向上対策」と「魚のゆりかご水田プロジェクト（田んぼと琵琶湖との連続性を保つために排水路に魚道を設置し、在来魚を保全する取組）」を活用し、琵琶湖の生きものと人が共存し、持続可能な農業を目指す取組を展開。

○　「魚のゆりかご水田」でのイベント（田植え体験、生き物観察会、稲刈り体験）、水田オーナー、地域サポーター、大学、行政等の地域外の参加者との交流を積極的に行い、意見や要望等を聞きながら、活動の工夫や「魚のゆりかご水田米」のＰＲ・販売を実施。

【地区概要】多面的機能支払交付金

- 取組面積　46.48ha（田）
- 資源量　水路5.0km、農道4.3km
- 主な構成員　農業者、非農業者、自治会、子供会、PTA等
- 交付金　約2百万円（H29）

（農地維持支払
資源向上支払（共同））

活動開始前の状況や課題

○　本地域は、昭和47年から始まったほ場整備が行われる前は、田舟を使って農業を営むクリーク地帯

○　ほ場整備によりクリークは埋められ、生産性と利便性が向上した反面、普段の暮らしの中で川や琵琶湖との関わりが希薄となり、身近な生きものの価値や水辺環境の良さに気付くことが困難に

○　集落内も高齢化が進み、担い手が年々減少する中で、琵琶湖と人々が身近だった関係をもう一度取り戻し、地域の農業と環境を守る新たな集落ぐるみの取組が必要

ほ場整備前の須原集落内のクリークと田舟

取組内容

○　集落が一丸となって取り組みを始めた「魚のゆりかご水田」を持続可能な活動とするため、「水田オーナー制度」を導入し、田植え体験、生き物観察会、稲刈りの体験イベントを実施

○　大学のインターンシップの受け入れ、大学への出前講座など、教育機関と連携した環境学習を実施

○　米のブランド化や地酒の製造販売による6次産業化、JAが行う東京での収穫祭と連携し、地元農産物のPR活動を実施

【平成29年度の活動実績】
- 田植え体験（80名参加）、生きもの観察会（210名参加）、稲刈り体験（100名参加）
- 一部、無農薬、無化学肥料栽培の実施
- 鮒寿司漬け体験（21名参加）
- 東京の大学からゼミ合宿受入（15名）
- 国内外から視察研修受入（12団体）
- 「魚のゆりかご水田」活動動画をyoutube、HPに掲載　等

取組の効果

○　「魚のゆりかご水田」を中心とした活動を集落内の人たちだけでの農村環境保全活動に留めず、最初から「魚のゆりかご水田米」のＰＲや販売の仕方まで視野に入れながら取組を推進

○　イベント等で集まった水田オーナーや地域サポーター、大学や有識者、行政等との交流を積極的に行い、意見や要望等を聞き、次に繋がるように工夫しながら活動を展開

→　無名だった須原集落が、「せせらぎの郷」として平成23年度全国豊かなむらづくり表彰事業をはじめ、数々のコンクール等で受賞されるほどに地域が発展

HPでの「魚のゆりかご水田米」のPRと生き物観察会の様子

周世(すせ)美(うつく)しい村づくり活動組織（兵庫県赤穂市(あこうし)）

○ 本地域は、中山間地域に位置する水田地帯であり、都市部への人口流出により、農村環境の維持管理が困難となっていた。

○ このため本活動組織は、平成19年度から農地･水･環境保全向上対策に取り組み、地域ぐるみの共同活動を実施。構成員に、女性グループによって運営されている直売所「周世ふれあい市場」も参画。

○ 活動を通して、女性グループと地元農業者の連携が図られ、「周世ふれあい市場」の地元農産物の直売や、商品の加工･販売等の活動が活発化。

○ 地域の農産物を活用した巻き寿司や弁当、シフォンケーキ等の農産加工品の製造･販売を手がけるなど、6次産業化による地域農業の発展や地域住民や都市住民等との交流に貢献。

【地区概要】
- 取組面積　33ha（田 33ha）
- 資源量　開水路10.2km、農道3.1km
- 主な構成員
  土地利用組合、周世ふれあい市場
  子供会、PTA、自治会ほか
- 交付金　約3百万円（H29）
  （農地維持支払
  資源向上支払（共同、長寿命化））

活動開始前の状況や課題

○ 兵庫県の西部の中山間地域に位置する水田地帯であり、都市部への人口流出が進み、農業者が減少。

○ 農村の良好な環境や美しい風景を保全することが困難となり、平成19年度から農地･水･環境保全向上対策に取組み、地域ぐるみで地域資源の保全活動を実施。

○ 女性グループが運営している「周世ふれあい市場」も構成員として参画。女性グループと地元農業者が連携して、イベント等の共同活動を実施。

取組内容

○ 活動を通して、農業者との連携が進み、女性グループは、地元農産物を活用した弁当やシフォンケーキの商品開発など、6次産業化の取組に発展。

○ 「周世ふれあい市場」の直売所を活用した地域住民の憩いの場づくりや、都市住民との交流を促進。

○ 「田んぼダム」広報イベントなどの場で、商品販売や、地元農産物をPRし、自然環境保全と活力ある農村づくりや地域農業の活性化に取組。

地域の農産物を活用した弁当の製造･販売

農林漁業祭での出店

取組の効果

【6次産業化に関する効果】
「周世ふれいあい市場」の取組
- 売上額2千2百万円（H28年度）
- 取扱品目
  H20年度 80品目→H29年度 120品目
- 女性従業員の雇用12人（H28年度）

○【地域住民等との交流に関する効果】
･【利用者数（日当たり）】
　H20年度 100人→H28年度 250人

地元農産物の販売

店内を地域住民の憩いの場として活用

イベントや景観形成による地域のつながりの構築

都市的地域

さんがまき　　　　　　たかつきし
三箇牧地区農空間保全協議会（大阪府高槻市）

○　当協議会は京都と大阪のほぼ中間、淀川平野に位置する水田を中心とした地域で活動に取り組んでいる。

○　これまでも、地域機能増進事業をきっかけに、幹線水路の空き地を利用したポケットパークや緑道を整備する環境保全の活動に取り組んでいた。

○　その後、農地・水（現在は多面的機能）の取組を契機として、レンゲやコスモスを活用した景観形成や地域交流イベント、小学校と連携した農業体験、他の活動組織との交流、これらを通じた地域の繋がりの醸成を、より深度化している。

【地区概要】
- 取組面積　104ha（田100ha、畑 4ha）
- 資源量　開水路34.5km、農道14.0km
- 主な構成員
  農業者、自治会、老人会、子供会、小学校、高槻レンゲ振興会　等
- 交付金　　約3百万円（H29）
  （　農地維持支払　）

地域の活動内容

○地域の交流の場として、レンゲの里やコスモス栽培の場を一般開放することで、自然のふれあいを求めて訪れる人に好評。

○環境保全活動として、春に「チューリップフェスタ」、秋には「緑化フェスタ」を毎年開催している。

○自らのホームページにより地域の紹介を行っている。

農業用水路清掃

レンゲ祭

チューリップの植栽

地域を彩るコスモス

活動の広がり

○大阪府内の他の活動組織と交流の場を設けることで、情報発信と入手を行い、関係者の意識向上に努めている。

○小学校へ農業体験の場を提供することで、地元の子ども達に農業について関心を持ってもらう。

小学校連携による農業体験

他の活動組織との積極的な情報交換

活動の効果

○地域の景観に関する意識が向上したことにより、ゴミの不法投棄が無くなった。

○色々な取組において小学校と連携することで、子どもが参加する機会が増え、子ども達も元気になった。

○今後は、子ども達が将来農家になってみたいと思えるような取組を行っていきたい。

緑化フェスタ

三箇牧ウォーク

花一杯運動

菜の花観察

棚田保全による都市・農村交流の推進

中間農業地域

しもあかさかじょうあとしゅうへんたなだほぜんきょうぎかい　みなみかわちぐんちはやあかさかむら

下赤阪城跡周辺棚田保全協議会（大阪府南河内郡千早赤阪村）

○ 本地域は、大阪府南東部の金剛山の中腹に位置し、室町時代に形成された棚田と豊かな自然が広がる歴史や文化に恵まれた地域である。

○ 平成11年に「日本の棚田百選」への選出を契機に「下赤阪棚田の会」を結成し、近郊の都市住民と連携した棚田保全活動等を実施。平成27年度に周辺地区を含めた活動組織を立ち上げ、多面的機能支払交付金を活用し、畦畔や耕作道の軽微な補修等営農環境の維持・改善を図る活動を実施。

○ 本取組を通じ、都市農村交流の促進が図られるとともに、棚田と周辺環境の適切な保全により棚田を活用した村を代表する観光イベントが毎年開催されるなど地域振興が図られている。

【地区概要】
- 取組面積　4ha（田3ha、畑1ha）
- 資源量　開水路1.8km、農道1.6km
- 主な構成員
  農業者、村立中学校
- 交付金　0.1百万円（H29）
  （農地維持支払）

活動開始前の状況や課題

○ 本地域は、大阪府南東部の金剛山の中腹に位置し、室町時代に形成された棚田が創り出す美しい景観を有する中山間地域である。

○ 千早赤阪村は過疎地域となり、人口減少や担い手不足、農業者の高齢化が進行し、棚田の維持管理が難しく耕作放棄地の増加が懸念される状況であった。

○ 平成11年に「日本の棚田百選」に選ばれたことを契機に棚田保全の機運が高まり、棚田の地権者による「下赤阪棚田の会」を結成。

下赤阪の棚田

取組内容

○ 平成27年度から、周辺地区も含めた活動組織を立ち上げ、多面的機能支払交付金を活用し、畦畔や耕作道の軽微な補修等の活動を行い、営農条件を維持・改善。

○ 大阪府の基金を活用した「棚田・ふるさとファンクラブ」と連携し、年7～8回、草刈りや泥上げ、不作付地を利用したコスモスの植栽等を実施。

畦畔補修

取組の効果

○ 棚田の保全活動に毎回多くの都市住民や大学生等のボランティアが参加するなど、都市農村交流の促進が図られている。

（毎年延べ300人以上が活動に参加。
多い時には1回の活動で80人が参加。）

○ 本取組により、棚田と周辺環境が適切に保全され、「早乙女による田植え」や「金剛山の里　棚田夢灯り&収穫祭」などの村を代表する観光イベントが継続的に開催され、地域振興が図られている。

（近年の「棚田夢灯り&収穫祭」の観光客：4,000人）

棚田保全活動

ジャガイモの収穫イベント

ため池の保全管理と一体となった農振農用地区域外における取組

あみだ　たかさご

阿弥陀地区地域資源保全会（兵庫県高砂市）

○ 本地区は、21箇所のため池を水源とし、市街化調整区域に広がる水田地帯。これまで地区内のため池はため池整備構想に基づく5つのため池協議会により、水路は9つの水利組合により、別々に保全管理されてきた。

○ 兵庫県は、ため池の保全等に関する条例に基づくため池整備構想を策定し、「農業用水供給能力や治水能力が高い、安全なため池」「自然に触れられる快適なため池」等を目標に、ため池やその周辺整備、地域住民参加による管理等を進めており、本地域のため池をはじめ、同構想に基づき保全管理を行う受益農地を農地維持支払交付金の対象農地に設定した。

○ 平成26年度より、5つのため池協議会及び9つの水利組合に、地域の14の農会（農業者の集まり）を加え、活動組織を設立し、21箇所のため池及び地区内の水路の一体的な保全管理を開始した。

【地区概要】
・取組面積 106ha（田105ha、畑1ha）
・資源量
　開水路53.0km、ため池21箇所
・主な構成員
　農業者、非農業者
・交付金　約3百万円（H29）
（農地維持支払）

地域の状況

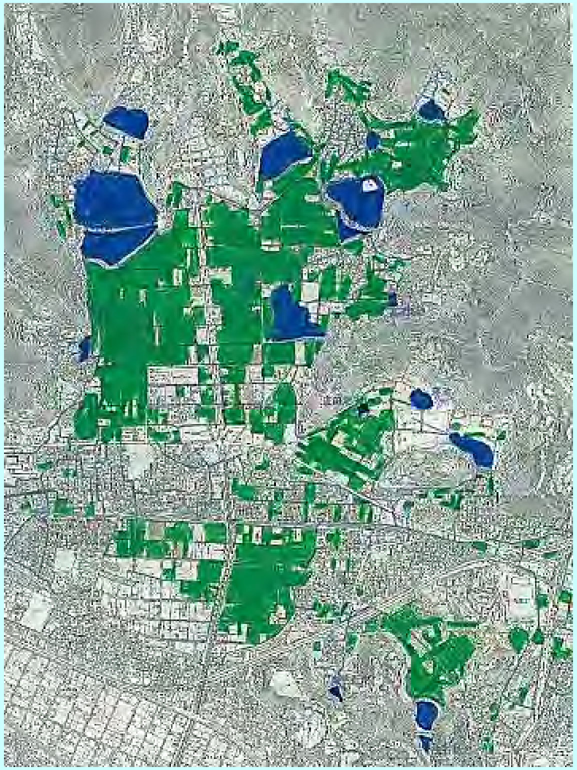
○本地域は、昭和44年にほ場整備事業が行われたが、現在地区内の水路は老朽化が進行。

○農家数の減少・高齢化が進み、水利組合によって水路の泥上げや草刈り、補修等の保全管理を十分に行うことが困難であった。

○地域は、兵庫県ため池整備構想に基づき保全管理されているため池の受益地。

○なお、高砂市内の農地に農振農用地区域は設定されていない。

対象農用地（農振農用地区域外）
保全管理するため池



ため池の保全管理

草刈り、ゴミ拾い等

地域住民による外来種駆除